

23 畜産生産力・生産体制強化対策事業

令和9年度予算概算要求額 953百万円（前年度 784百万円）

＜対策のポイント＞

肉用牛・乳用牛・豚・鶏の改良や牛個体識別番号と関連する生産情報等を集約・活用する体制整備を推進するとともに、肉用牛の肥育期間の短縮・出荷時期の早期化等の支援により、畜産物の生産力及び生産体制の強化を図ります。

＜事業目標＞〔令和5年度→令和12年度まで〕

- 生乳生産量：732万t→732万t      ○ 牛肉生産量：35万t→36万t      ○ 豚肉生産量：91万t→92万t
- 鶏肉生産量：169万t→172万t      ○ 鶏卵生産量：248万t→252万t

＜事業の内容＞

1. 家畜能力等向上強化推進

466百万円（前年度350百万円）

遺伝子解析技術等を活用した新たな評価手法や始原生殖細胞（PGCs）保存技術等により、生涯生産性の向上、遺伝的多様性を確保した家畜の系統・品種の活用促進、脂肪の質や繁殖性に着目した改良の加速化等を推進する取組を支援します。

2. 畜産情報活用強化対策

304百万円（前年度313百万円）

畜産関係団体やITベンダー等が連携し、牛の個体識別番号を基幹情報として、当該牛に関連する生産情報等を集約・活用する体制を整備する取組を支援します。

3. 肉用牛短期肥育・出荷月齢の早期化推進等

182百万円（前年度107百万円）

肉用牛生産における生産コストの削減や環境負荷の低減、多様な消費者ニーズへの対応に資する、肉用牛の肥育期間の短縮・出荷月齢の早期化等を推進するため、

- ① シンポジウムの開催や実証事例集の作成等の全国的な普及に向けた取組
- ② オレイン酸や小ザンなどの新たな形質に着目した牛肉や、短期肥育・早期出荷により生産された牛肉の品質評価及び販路開拓を一体的に実施する取組を支援します。

＜事業の流れ＞



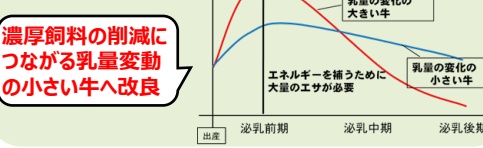
＜事業イメージ＞

1. 家畜能力等の向上強化

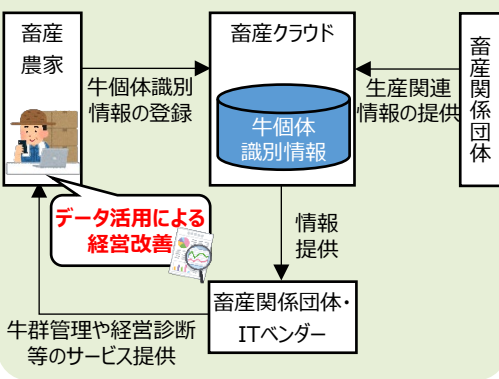
・遺伝子解析技術による評価手法



・生涯生産性の向上



2. 畜産情報活用強化対策



3. 肉用牛短期肥育・出荷月齢の早期化推進等

